

耕地の子どもの暮らしと遊び 旧倉尾村長沢耕地の記憶

高橋 喜代治 著



グイーツーソリューション
1080円
「Amazon」で販売

集落に響いた歓声の記録

地方消滅という言葉が飛び交うようになってから既に久しい。今、全国各地でそうならないように地方創生を目指し、さまざまな取り組みが展開されている。

本書はかつての一地方の小さな集落の姿を、記憶をたどりながら記録された、貴重な報告である。一般的にはこの種の本は、写真が中心になる。しかし本書はイラストと文章で、構成されている点がユニークである。

ほぼ著者と同世代の評者は、イラストを参考にして文章を読んでいくと、ただもう懐かしさが湧き上がってくるのを禁じ得なかった。

時代は昭和30年代になる。冒頭の口絵の長沢耕地の写真に添えられている次の文章が、本書の価値や意義を伝えている。

「長沢耕地は山の斜面に拓かれた小さな集落である。かつてはここに自給自足の生活と、群れて遊ぶ子どもたちの歓声があった」

今や田舎の小さな集落どころか、比較的町場の町内でも、群れて遊ぶ子どもたちの姿は、激減している。

私たちの世代もやがて消えてしまう。その前に、かつての日本の田舎の小さな集落でも、子どもたちの歓声が聞こえていた事実を確認し、地方創生を目指すためのヒントを共有し合うことが大切になる。そのための参考書になる一冊が本書である。

（庭野 三省・新潟県十日町市教育委員会教育委員）